

自立活動学習指導案  
(難聴児の指導)

広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇 〇〇

1. 日時 平成 29 年 6 月〇日 (〇)
2. 場所 ことばときこえの教室
3. 児童 第〇学年 A 児・B 児 (グループ指導)
4. 指導方針
  - (1) 聴覚管理をし、聴覚活用を図る。
  - (2) 正しい発音の定着を図る。
  - (3) 言語力の向上を図り、話したり書いたりする力を高める。
  - (4) コミュニケーション能力の向上を図る。
  - (5) 保護者との連携を図る。
  - (6) 交流学級の担任との連携を図る。

本学級での指導のねらいは、聞こえや言葉に課題のある児童を正しく理解することを基盤として、的確な実態把握のもと、児童の課題に応じた指導・支援を行い、全体的に調和の取れた発達を促し、学校生活や社会生活への適応を図ることである。そこで、指導にあたっては、本児を取り巻く聞こえや言葉などの環境を整えながら、聞くことや話すこと等への自信を育てていきたい。

5. 指導計画 (短期)

指導目標	内容
(1) 聴覚管理及び聴覚活用の促進を行う。	<ul style="list-style-type: none"><li>・定期的に聴力検査を実施し、聴覚管理をする。</li><li>・人工内耳の電池切れや不調があった時には、担当者に伝えることができる。</li><li>・ロジャー補聴システムを使用できるようにする。</li><li>・話者の方を見て、話を聞くことができるようにする。</li><li>・人工内耳の送信コイルが外れた時に、自分でつけることができるようにする。[A 児]</li><li>・最後まで話を聞いてから、話すことができるようにする。[A 児]</li></ul>
(2) 発話明瞭度を上げる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・声の大きさや明瞭度に意識を向け、相手に伝わるように話そうとする態度を育てる。</li><li>・音韻数を意識して、話すことができる。</li><li>・[ケ] 音の発音要領の定着を図る。[A 児]</li><li>・[ス] 音の発音要領の定着を図る。[B 児]</li></ul>
(3) 言語力を高める。	<ul style="list-style-type: none"><li>・日記指導において、5W に沿って、経験したことや思ったことを簡単な文章で書いたり、質問に答えたりすることができる。</li><li>・教科的な指導等において、身の回りの言葉 (名詞、動詞) や、登場人物の気持ちや様子についての、語彙の拡充を図る。</li><li>・音韻数が曖昧な語について、書いてある文字を一文字ずつ読んだ</li></ul>

<p>(4) コミュニケーション能力を高める。</p>	<p>り、指文字と合わせて言ったりすることで、正しい音や言葉を獲得できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ指導を通して、自分の思ったことを相手に伝わるように話したり、相手の話を聞いたりして、会話のやりとりがスムーズにできるようにする。</li> <li>・周りを見て、自分の作業のペースを調節しながら行動できるようにする。[A児]</li> <li>・思い通りにならない時に、自分の思いを周りの大人に伝え、気持ちの切り替えが早い段階でできるようにする。[B児]</li> </ul>
<p>(5) 保護者との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳を使い、日々の学習の様子や児童の学校や家庭での様子について情報交換を行う。</li> <li>・電話連絡や定期的に懇談の時間を設け、課題の共有化を図る。</li> <li>・保護者会を実施する。</li> <li>・教室行事や育成会行事への参加を勧める。</li> </ul>
<p>(6) 交流学級の担任との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流学級や本学級での児童の様子について、日々情報交換を行う。</li> <li>・実態把握を実施し、交流学級での実態を把握する。</li> <li>・担任者会の開催を通して、情報交換を行う。</li> <li>・交流学級の授業参観を行い、実態把握に努める。</li> </ul>

## 6. 本時の学習指導案

### (1) 本時の目標

- ①話者の方を見て、話したり聞いたりすることができる。
- ②正しい音韻数を意識して、話したり読んだりすることができる。
- ③主語に合う述語を正しく結びつけることができる。
- ④助詞の「が」の使い方を理解し、文章を考えたり、書いたりすることができる。
- ⑤「 」のつく言葉集めをし、自分が見つけた物を発表したり説明をしたりすることができる。
- ⑥「 」のつく言葉集めで、分からない言葉があった時には、タブレットの画像を見たり説明を聞いたりして、自分が経験したことや知っていることと関連付けて思い出したり、話をしたりすることができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	目標	○支援・配慮事項 ☆評価		準備物
		A児	B児	
○始めのあいさつをする。	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話者の方を見ていることを確認してあいさつの合図を出す。</li> <li>・終わりのあいさつの言葉が書かれているカードを机の上に置き、忘れた時や自信がない時に確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話者の方を見ていることを確認してあいさつの合図を出す。</li> </ul>	・あいさつの紙

<p>○学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日にちを読む。</li> <li>・学習内容を聞く。</li> </ul> <p>1. 絵日記の学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読む人 (B 児)、聞く人 (A 児) の確認をする。</li> <li>・読む人、聞く人の約束を確認する。</li> <li>・絵日記を読む。</li> <li>・質問や感想を言う。</li> </ul> <p>2. 国語科「ぶんをつくろう」の学習をする。(教科書 P46)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て、主語と述語になる言葉を言う。</li> <li>・助詞「が」を使うことを知る。</li> <li>・「□が□。」の文章をノートに書く。(教科書 P46)</li> <li>・一緒に読む。</li> <li>・プリントの絵を見て、絵に合う主語カードと述語カードの組み合わせを選ぶ。</li> <li>・助詞「が」のシール</li> </ul>	<p>②</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日にちを読む前に、「2日」を「ふつか」と読むことを確認する。</li> <li>・先生の話最後まで聞かずに、話し始めた時には、後で質問をする時間を取ることを伝え、聞く時間ということが意識できるようにする。</li> </ul> <p>①</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B 児が日記を読んでいる時や説明をしている時に話し始めることがあるため、約束の紙を見て、静かに聞くことを確認する。</li> <li>・B 児が読んでいる最中に話した時は、約束の紙を指差し、読み終わるまで待つように言葉をかける。</li> <li>・質問をする時に、声が小さく、相手に伝わらない時には、大きな声ではっきり話すことを意識できるように言葉をかける。</li> </ul> <p>③</p> <p>④</p> <p>①</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語や述語を言う時に、本児が経験したことや思ったことを話し始めたり、絵の他の部分に注目し話題がそれたりした場合には、着目する部分を伝えることで学習に集中できるようにする。</li> <li>・「□が□。」を提示する時は、主語や述語、助詞に着目しやすいうように色分けして提示する。</li> <li>・動詞の「歩く」「泳ぐ」等のイメージを深められるよう、必要に応じて動作化したり絵を描いたりする。</li> <li>・ノートに書く際には、下敷きをしくことや日にちを書くこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日にちを読む前に、「2日」を「ふつか」と読むことを確認する。正しく読めない時には、指文字で提示したりふりがなを打ったりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で日記を読むことが意識できるよう、約束の紙を見て、伝える。</li> <li>・読むスピードを調節したり、読み誤りに自分で気づいたりすることができるよう、日記で読んでいる文章を担当者が紙に書き、復唱しながら聞くようにする。</li> <li>・本児が絵の説明をする際に、本児が話した内容 (物の名称、動詞、様子を表す言葉) を担当者が書き加えたり、復唱したりすることで、正しい言い方や表記の仕方を確認できるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「□が□。」を提示する時は、主語や述語、助詞に着目しやすいうように色分けして提示する。</li> <li>・動詞の「歩く」「泳ぐ」等のイメージを深められるよう、必要に応じて動作化したり絵を描いたりする。</li> <li>・ノートに書く際には、下敷きをしくことや日にちを書くこと、良い姿勢で書くことを確認する。</li> <li>・書き始めや書き方が分からない時には、ノートと同じマス目に書いた見本を近くに置き、書き始めの場所を伝え、自分で書けるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の紙</li> <li>・日にちの紙</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵日記</li> <li>・絵日記の約束の紙</li> <li>・タブレット</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の教科書</li> <li>・ノート</li> <li>・「□が□。」の文章の短冊</li> <li>・プリント (絵)</li> <li>・主語カード</li> <li>・述語カード</li> </ul>
--	---	---	--

<p>を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えた文章の中から 1 つ選んで、ノートに書く。</li> </ul> <p>3. 「 」の言葉集めをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順番に、「 」のつく言葉を 1 つずつ発表する。</li> <li>見つけた言葉を一緒に読む。</li> <li>全部で何個の言葉を見つけたか、数える。</li> <li>分からない言葉を、タブレットで確認する。</li> </ul> <p>4. 学習したプリントをファイルにはさ</p>	<p>① と、良い姿勢で書くことを確認する。また、脇が開いた状態で</p> <p>② 書いている時には、脇を締めたり、</p> <p>⑤ ノートを本児の正面になるように調整したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>助詞「が」を意識できるよう、「が」と書いたシールをプリントに貼るようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わる声の大きさを意識しながら発表できるよう、言葉をかける。</li> <li>発表した言葉を教師用のプリントに 2 人分をまとめて書き、同じ言葉を見つけたことや知らない言葉があった時に、伝えられるようにする。</li> <li>表記や発音の誤りがあった時には、正しい書き方や言い方を伝え、書き直したり言い直したりするよう促す。</li> <li>① 2 人合わせて、15 個以上の言葉を見つけた場合、数える時には、担当者が一緒に数を数えることで、正しく数唱できるようにする。</li> <li>分からない言葉があった時には、タブレットの画像で見て、理解しているかどうか確認する。知っている言葉であれば、詳しく話すように言葉をかける。知らない時は、担当者が本児に分かるように説明を加える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した成果が見て分かるように、今日学習したプリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントの絵の文章を考える時には、本児が自信をもって活動に取り組めるように、絵のあるプリントを用意し、その絵に合う主語カードと述語カードを選ぶことができるようにする。</li> <li>助詞「が」を意識できるよう、「が」と書いたシールをプリントに貼るようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表する順番は、日記を読んだ人が 1 番にすることを確認し、安心して学習に取り組めるようにする。</li> <li>相手に伝わる声の大きさを意識しながら発表できるよう、言葉をかける。</li> <li>発表した言葉を教師用のプリントに 2 人分をまとめて書き、同じ言葉を見つけたことや知らない言葉があった時に、伝えられるようにする。</li> <li>表記や発音の誤りがあった時には、正しい書き方や言い方を伝え、書き直したり言い直したりするよう促す。書き直すことを嫌がる様子が見られた時には、担当者が書き直したり、タブレットで調べる時に正しい書き方を見て確認したりする。</li> <li>分からない言葉があった時には、タブレットの画像で見て、理解しているかどうか確認する。知っている言葉であれば、詳しく話すように言葉をかける。知らない時は、担当者が本児に分かるように説明を加える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した成果が見て分かるように、今日学習したプリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助詞シール</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉集めのプリント</li> <li>教師用の言葉集めのプリント</li> <li>タブレット</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習ファイル</li> </ul>
---	--	--	--

<p>む。</p> <p>5. 終わりのあいさつをする。</p>	<p>を学習ファイルにはさみ、頑張ったことを褒める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話者の方を見ていることを確認してあいさつの合図を出す。</li> <li>・終わりのあいさつの言葉が書かれているカードを机の上に置き、忘れた時や自信がない時に確認できるようにする。</li> </ul>	<p>を学習ファイルにはさみ、頑張ったことを褒める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話者の方を見ていることを確認してあいさつの合図を出す。</li> </ul>	<p>ル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンチ</li> <li>・あいさつの紙</li> </ul>
----------------------------------	--	---	--